

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校配当の漢字を普段の生活のなかで書けるようにする。 ・文章を書くとき、主述の関係や、接続語を的確に使い、他者に伝わる文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ、月に2冊以上、本を読む。 ・自分の意見を、根拠を明確にして他者に伝えられるようにする。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ア 小学校の配当漢字が読めない生徒がいる。 イ 文章を書く際、主述の分かりにくい文章を書く生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 名文の視写を定期的に行い、漢字に親しむ時間をつくる。 イ 単元ごとにミニ作文を書き、生徒同士で読ませることで、他者意識を持った文章を書かせる経験を積む。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 市学力調査【知識・技能】 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 <p>所見</p>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ア 小学校の配当漢字が読めない生徒がいる。 イ 本を読む生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 漢字を使ったゲームや、辞書を使う授業を増やし漢字に親しむ時間をつくる。 イ 教科担当と、図書館司書で定期的にブックトークを行い、本に親しむ環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 市学力調査【知識・技能】 中一時→64% イ 市学力調査【思考・判断・表現】 中一時→45% <p>所見</p>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ア 小学校の配当漢字が書けない生徒がいる。 イ 文章を書く際に、根拠の不明確な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 漢字の小テストを定期的に行う。 イ 定期テストの際に、作文問題を課し、他者に伝わりやすい文章を書く練習をする。 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年:スピーチのさい、パワーポイントで資料作りをする。</p> <p>2年:作文のさい、手書き、PC 書き、選択制にする。</p> <p>3年:スピーチのさい、パワーポイントで資料作りをする。</p>	<p>1年:単元のはじめに授業計画(どのくらいの時数で何を行うか)を伝える。</p> <p>2年:単元のはじめに授業計画(どのくらいの時数で何を行うか)を伝える。</p> <p>3年:単元のはじめに授業計画(どのくらいの時数で何を行うか)を伝える。</p>